

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 5 回相模原市在宅医療・介護連携推進会議			
事務局 (担当課)	地域包括ケア推進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 5 0 (直通) 医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)			
開催日時	令和 2 年 9 月 1 5 日 (火) ~ 9 月 3 0 日 (水)			
出席者	委員	2 1 人 (別紙のとおり)		
	事務局	/		
	その他	/		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面会議のため			
会議次第	<p>議 題</p> <p>(1) 副会長の選出について</p> <p>(2) 部会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携体制等に関する部会について <p>(3) 市民講演会及び事例等発表会について</p> <p>(4) 第 8 期相模原市高齢者保健福祉計画について</p> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養連携ケース「支え手帳」モデル事業 ・国への要望活動について 			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の意見、 は事務局の回答)

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により部会委員の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

議 題

(1) 副会長の選出について

- ・委員の互選により大塚委員を副会長とする。

(2) 部会の報告

- ・連携体制等に関する部会について

- 地域ケアサポート医のアウトリーチの活動と認知症初期集中支援チームの活動の区別、棲み分けをどうするのか。

地域ケアサポート医のアウトリーチについては、認知症に限らず、医師が訪問しなければ対応が困難な方を対象に実施することとしている。また、認知症初期集中支援チームについては、地域支援事業実施要綱で急性期を対象にアウトリーチを実施することとなっている。個々の対象者のニーズや課題等を踏まえながら、認知症初期集中支援チームと十分な連携を図りながら対応していきたいと考えている。

(3) 市民講演会及び事例等発表会について

- 事例等発表会のウェブ会議形式での開催には賛成だが、オンラインのツールに慣れないケアマネも少なくないので、心配である。

ウェブでの参加に限らず、多くの方に対応できるように開催方法を検討していく。

(4) 第 8 期相模原市高齢者保健福祉計画について

「 8 0 5 0 問題 」や介護と育児の「ダブルケア」に加え、最近表面化してきている「ヤングケアラー問題」も追加できないか。晩婚化が進む中で、いずれ社会問題化すると思う。

8 0 5 0 問題、ダブルケアやヤングケアラーなど複合化した課題を抱える世帯の家族全体を支援することが大変重要と認識している。こうしたことから、高齢・障害・子どもなど分野対象者別や世代を問わない包括的な支援体制の整備を進めたいと考えている。高齢者保健福祉計画のほか地域福祉計画や子ども・子育て支援事業計画などもあることから、ヤングケアラーの追記についてはこうした点も含めて検討することが必要と考えている。なお、個別の案件等があったらご連絡をいただくようお願いする。

- 総合事業の実施状況に関して、新型コロナウイルスによる活動自粛によって生じた

廃用性症候群のモニタリング調査や集合型ではない介護予防活動の手段に対する開発・検討を計画的に組み込んでいただきたい。

他の事業の記載を勘案し計画への記載について検討を進めていく。一部の百歳体操実施団体へのアンケート結果で自粛により筋力体力が落ちたと感じている方の割合も多く課題となっていることから、引き続き活動団体への聞き取り調査をしながら必要な支援を行っていく。

- 「定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所の整備促進」「看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備促進」とはどういった取り組み内容か。

現在のところ、利用者が安定せず、加算もほとんどないことから、黒字経営難しく、立ち上げるところが少ないと聞く。国でも看護小規模多機能型居宅介護事業所を勧めるといいつつ動きがない。次の法改正で何か出れば多少動くのかなとも思う。市の訪問看護ステーション管理者会として話し合う内容があれば教えてほしい。

このサービスは、退院直後や日常の療養時、急変時、看取り期などにおいて、医療と介護が必要な高齢者にとって有意義なサービスであるため、整備を促進している。現在のところ、サービスの認知度が低いという課題もあることから、周知を行っていくとともに、事業所にヒアリングしながら、必要な支援を行っていく。

(5) その他

・在宅療養連携ケース「支え手帳」モデル事業

- 支え手帳を本人に見られないよう対応に苦慮している家族もいる。クラウド管理できると利便性も上がり、有用性も上がるだろうと考える。

これまでも、ICTの活用等に関するご意見をいただいている。現在、モデル事業の相模湖・藤野地区への拡充を進めており、今後の進捗状況等を踏まえながら、大野中地区を含めモデル事業の結果等についてアンケートを行うなど、こうしたご意見等も含め評価・検証し、事業のあり方等を検討していきたいと考えている。

- 支え手帳モデル事業で病院から「持ってきてください」と言ってもらえると利用しやすくなるとの意見があり、もっと病院に支え手帳の有用さを知ってもらう必要があると思う。

支え手帳モデル事業の実施にあたっては、多くの関係者への周知と理解促進が大変重要と考えている。今後も病院や診療所等への周知を図っていくので、ご協力をお願いします。

・国への要望活動について

特になし。

以 上

(別紙)

令和2年度 相模原市在宅医療・介護連携推進会議 委員名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	伊勢田 明子	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
2	井出 道也	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
3	臼井 意	さがみはら介護支援専門員の会	職務代理 1	出席
4	大塚 小百合	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席
5	佐藤 隼	相模原地区訪問リハビリテーション連絡会		出席
6	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
7	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会		出席
8	田代 真士	相模原市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会		出席
9	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
10	谷 えみ子	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
11	中野 太郎	公益社団法人相模原市病院協会		出席
12	早田 栄	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
13	久松 信夫	学識経験者（桜美林大学）		出席
14	日高 明夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
15	比留間 由美子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
16	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
17	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席
18	八木 克介	相模原市認知症高齢者グループホーム連絡会		出席
19	矢口 君代	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
20	渡辺 加代子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		出席
21	佐藤 聡一郎	連携体制等に関する部会	部会長 1	出席

(敬称略、50音順)

1 連携体制等に関する部会